

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：25403

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03284

研究課題名（和文）生理用品の受容によるケガレ観の変容に関する文化人類学的研究

研究課題名（英文）A cultural anthropological study on the change of the view of "pollution" by the introduction of sanitary products

研究代表者

新本 万里子（Shimoto, Mariko）

広島市立大学・国際学部・研究員

研究者番号：60634219

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、モノの受容による月経のケガレ観の変容を、ジェンダーの視点から文化人類学的に考察した。具体的には、月経対処に関する基礎的データの欠落していたパプアニューギニアにおいて、月経対処に使用したモノの変遷を明らかにし、その変遷に従って女性たちの月経期間の過ごし方や禁忌の実践、知識の共有について資料を収集した。

それらの資料を分析することにより、月経をめぐるケガレは、社会の成員に災いを及ぼすような社会的に共有されたケガレから、個人的なものになり、物理的に汚いものへと変質しつつあることを明らかにした。また、月経をめぐる知識の共有や知識の質にも変化があることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義：生理用品というモノの受容に焦点をあてて女性の歴史的経験を検討したことにより、月経をめぐるケガレ観の変容と女性の身体観の変容を明らかにした。文化人類学において月経は、ケガレという概念から論じられていた。その月経を、女性たちの禁忌の実践という側面から検討し、男性による忌避にいかに対峙してきたのかを明らかにすることができた。

社会的意義：途上国では月経衛生対処という開発支援が展開し、月経教育のデザインが一つの課題となっている。本研究の知見は、月経教育をデザインする上で参照しうるものとなったと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify, from a cultural anthropological perspective, the change of the view of "pollution" through the introduction of objects.

Specifically, in Papua New Guinea, where basic data on coping with menstruation were lacking, I clarified transition of objects used to cope with menstruation and collected data on how women spent their menstrual periods, practiced taboo, and shared knowledge about menstruation according to this transition.

By analyzing these materials, I found that the "pollution" surrounding menstruation are changing from a socially shared "pollution", which is a plague to the members of the society, to a personal and physically dirty one. The study also revealed that there is a change in the sharing of knowledge and the quality of knowledge surrounding menstruation.

研究分野：文化人類学

キーワード：月経 生理用品 ケガレ 身体 生理 パプアニューギニア アベラム 月経衛生対処

## 1. 研究開始当初の背景

月経と出産などの生理的現象を忌避する社会は世界各地に広くみられ、死の不浄などととも、文化人類学においてはケガレとして理論化されてきた。本研究が対象とするメラネシアは、オセアニアのなかでもことに月経に対するケガレ観が強く、禁忌の発達した地域として報告されてきた地域である。たとえば、パプアニューギニアにおける文化人類学的研究においては、経血が男性にとって危険なものであり、月経に関する忌避や不浄視が発達していることが報告されてきた。一方で、これらの報告には、月経期間の女性が「女の家」の奥や特定の小屋（以下、月経小屋と記述する）の中にいたという記述があるのみで、月経対処にはどのようなモノが用いられていたのか、女性たちは月経期間をどのように過ごしていたのかという記述はほとんど見られない。月経は、ケガレという観念から論じられてきたのである。

生理用ナプキンの流通を世界史的にみれば、発明されたのは1920年代のアメリカにおいてであり、日本では1960年代にアンネ社が発売をはじめた。グローバルな動きと連動して、パプアニューギニアへも生理用ナプキンが流入している。最初に生理用ナプキンが持ち込まれたのは、オーストラリアによる植民地時代に遡ると考えられる。当時、都市部の学校や病院でオーストラリア人女性の教員や看護婦によって使用された。近年では、流通網の整備によって都市部の薬局や商店、スーパーマーケットで生理用ナプキンは販売され、村落部にも普及しはじめている。また、生理用ナプキンのテレビCMも流れるようになった。

## 2. 研究の目的

本研究は、モノの受容による月経のケガレ観の変容を、ジェンダーの視点から文化人類学的に考察することを目的とした。具体的には、パプアニューギニアにおける生理用品（ナプキンなど西洋起源の月経対処の道具）の受容を切り口に、月経対処に使用されたモノの変遷を明らかにし、その変遷に沿ってどのような月経対処が行われてきたのかを明らかにする。また、月経はいかに忌避され、女性たちは月経期間の禁忌をどのように実践していたのかを明らかにする。それにより、女性の身体観と月経にまつわるケガレ観の変容を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

パプアニューギニアの都市部と農村部から調査対象地を選定し、インタビューを中心とする民族誌的調査を行った。調査対象地としたのは、東セピック州の州都ウェワクのほか、同州マプリク地区とワサラ ガウイ地区、東部高地州の州都ゴロカである。とくに中心的な調査地としたのは、東セピック州マプリク地区である。

東セピック州マプリク地区では、生理用品の変遷を聞き取り、生理用品の収集も行った。使用した生理用品の変遷にしたがって、女性たちが月経期間の禁忌をどのように実践していたのかを聞き取った。また、男性もふくめたコミュニティの呼びとが、月経期間の女性をどのように忌避してきたのか、その実践についてもインタビューを行った。マプリク地区の事例に比較する形で、ワサラ ガウイ地区でも同様の調査を行った。

生理用品の変遷の背景には、学校での保健教育や病院出産の導入、国際NGOの家族計画プログラムの推進なども何らかの関りがあると考えられた。東セピック州マプリク地区とワサラ ガウイ地区、東部高地州の初等学校では、トイレの見学、月経に関する授業の見学、教師へのインタビュー、女子生徒への質問紙調査とインタビューを行った。マプリク地区では、出産場所の変化についての聞き取りと、家族計画プログラムによってどのような避妊の知識と技術がもたらされたのかについても聞き取りを行った。

なお、生理用品に関する情報がどのようにもたらされているのかを明らかにするために、雑誌、薬局の広告などを収集し、インターネットやテレビCMからも情報を収集した。薬局と商店では生理用品を購入、収集した。

以上の調査から得た資料を、パプアニューギニアの月経に関する先行研究と比較して、女性の身体観と月経にまつわるケガレ観の変容について分析を行った。

## 4. 研究成果

本研究の成果は、次の3点である。第一に、これまで女性研究者が入りにくく、月経対処に関する基礎的データの欠落していたパプアニューギニアの農村部において、月経対処に使用されたモノの変遷と月経対処の変遷を明らかにした。具体的には、聞き取りができたもっとも高齢の世代は、月経小屋でヤシ科植物の葉鞘に座するという月経対処をしていた。次の世代では布が流入し、高床式家屋の床下やベランダの隅、自分の部屋などで布に座するという対処が行われた。次にパンツが流入し、女性たちはパンツに布を挟むという月経対処を行うようになった。この世代の女性たちには、パンツに布を挟むという月経対処をして、学校に通学するようになった世代である。モレを気にする典型的な語りがあり、月経を「恥ずかしい」と見なし、初潮儀礼が行われるのを避けるようになった世代でもある。さらに次に、生理用ナプキンが流入している。この世代は、月経期間でもモレをあまり気にすることなく人前を歩くことができるようになった世代で

ある。

第二に、第一の変遷の軸にそって月経期間の女性たちの禁忌の実践と男性の忌避の実践を分析することにより、ケガレ観がどのように変質したのかを検討した。月経小屋が存在した当時、月経期間の女性たちは、月経小屋に入ることによって社会的に可視化されていた。当時は、月経のケガレに触れることによって、そのケガレが移ると考えられていた。月経のケガレが焼畑にもちこまれると、作物の生育は台無しになると考えられていた。時代がぐだりパンツや生理用ナプキンが使用されるようになると、女性たちは月経期間でも月経小屋に行くことがなくなった。男性たちからみれば、月経期間の女性が誰なのかが分からなくなった。月経期間の女性は、社会的に不可視になった。この世代の女性たちの中には、かつて月経期間にやってはいけないといわれていた禁忌の行為を人にはだまっで行う者もでてきた。月経は、社会に災いを及ぼすようなケガレから、個人的なものになり、また物理的に汚いものに変質しつつある。

第三に、女性たちの身体に関する知識の変容を指摘することができる。月経小屋が存在していた当時は、月経期間の重なった女性が月経小屋で一緒に過ごしていた。そこでは、経血量や妊娠、閉経という知識が共有されていた。月経小屋がなくなり生理用ナプキンで対処するようになった世代は、かつて月経小屋のなかで女性たちが交換していた情報へのアクセスが希薄になった世代である。女性たちの身体についての知識が変容しているのである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>新本 万里子                                 | 4. 巻<br>28          |
| 2. 論文標題<br>パプアニューギニアにおける月経衛生対処に関わる教育と女子生徒たちの実践   | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>国際開発研究                                 | 6. 最初と最後の頁<br>35～49 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.32204/jids.28.2_35 | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）            | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>新本 万里子  | 4. 巻<br>第83巻 第1号    |
| 2. 論文標題<br>生理用品の受容によるケガレ観の変容 パプアニューギニア・アベラム社会における月経処置法の変遷から | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>文化人類学   | 6. 最初と最後の頁<br>25-45 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.14890/jjcanth.83.1_025        | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                       | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 2件/うち国際学会 3件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>SHINMOTO Mariko  |
| 2. 発表標題<br>Knowledge about Menstruation and Women's Life Course: A Case Study of the Abelam in Papua New Guinea |
| 3. 学会等名<br>2022 Annual Meeting, American Anthropological Association (国際学会)                                     |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>新本 万里子  |
| 2. 発表標題<br>可視化されていた月経 パプアニューギニア・アベラム人の月経対処   |
| 3. 学会等名<br>日本熱帯生態学会第32回年次大会 ダイバーシティ推進サテライト企画「フィールドワークと月経をめぐる対話 熱帯に暮らす人・動物・フィールドワーカー」（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>新本 万里子                                      |
| 2. 発表標題<br>パプアニューギニアにおける月経教育とジェンダー 焼畑農耕民アベラムを対象とした調査から |
| 3. 学会等名<br>日本文化人類学会第56回研究大会 分科会「グローバル化時代の月経教育とジェンダー」   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>SHINMOTO Mariko  |
| 2. 発表標題<br>Health Service Utilization and Issues Related to Childbirth : Papua New Guinea Arapesh Women's Choice of Place of Delivery |
| 3. 学会等名<br>82nd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>新本 万里子                           |
| 2. 発表標題<br>パプアニューギニア焼畑農耕民アベラムの月経対処と開発支援のかたち |
| 3. 学会等名<br>総合地球学研究所「第4回女性のサニテーション研究会」(招待講演) |
| 4. 発表年<br>2022年                             |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>新本 万里子   |
| 2. 発表標題<br>出産をめぐる医療サービスの利用と課題 パプアニューギニア・アラペシュ人の出産場所の選択をめぐって |
| 3. 学会等名<br>第39回日本オセアニア学会研究大会                                |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>新本 万里子  |
| 2. 発表標題<br>出産をめぐる医療サービスの利用と課題 パプアニューギニア・アラベシュ人女性の出産場所の選択をめぐる |
| 3. 学会等名<br>国際開発学会第32回全国大会                                    |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>SHINMOTO Mariko  |
| 2. 発表標題<br>Education of Menstrual Hygiene Management and Practice among Schoolgirls in Papua New Guinea |
| 3. 学会等名<br>81st Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)                           |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>新本 万里子   |
| 2. 発表標題<br>パプアニューギニアにおける月経衛生対処に関わる教育と女子生徒たちの実践 月経のケガレと羞恥心をめぐる |
| 3. 学会等名<br>国際開発学会 & 人間の安全保障学会2019共催大会                         |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>新本 万里子   |
| 2. 発表標題<br>パプアニューギニアにおける月経をめぐる言説と女性たちの実践 保健教育を受けた世代に焦点をあてて      |
| 3. 学会等名<br>日本文化人類学会第53回研究大会 分科会「グローバル化時代に月経はどう観られるのか ケガレ・禁忌・羞恥」 |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>新本 万里子                                |
| 2. 発表標題<br>サゴデンプン抽出作業の役割分担 パプアニューギニア・アベラム社会の事例から |
| 3. 学会等名<br>サゴヤシ学会第28回講演会                         |
| 4. 発表年<br>2019年                                  |

〔図書〕 計1件

|                                |                 |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>杉田映理、新本万里子           | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>世界思想社                | 5. 総ページ数<br>302 |
| 3. 書名<br>月経の人類学 女子生徒の「生理」と開発支援 |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

|  |
|--|
| <p>新本万里子 2022「国際開発の対象となった月経の文化人類学的課題」杉田映理・新本万里子編『月経の人類学 女子生徒の「生理」と開発支援』世界思想社、pp.50-60.</p> <p>新本万里子 2022「パプアニューギニア焼畑農耕民アベラムの月経対処と開発支援のかたち」杉田映理・新本万里子編『月経の人類学 女子生徒の「生理」と開発支援』世界思想社、pp.66-92.</p> <p>杉田映理・新本万里子 2022「ローカルな文脈から見える開発実践への示唆」杉田映理・新本万里子編『月経の人類学 女子生徒の「生理」と開発支援』世界思想社、pp.268-285.</p> <p>新本万里子 2021「パプアニューギニアにおける月経の禁忌の実践とジェンダー・カテゴリー間の関係の変化 保健教育を受けた世代のサゴヤシ澱粉抽出作業をめぐって」越智郁乃・関恒樹・長坂格・松井生子編『グローバル化とつながりの人類学』七月社、pp.159-180.</p> |
|--|

| 6. 研究組織                   |                       |    |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

|         |         |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|